

まがたま 勾玉を作ろう！

勾玉って何だろう？

「勾玉」は、縄文時代から古墳時代にかけて作られたアクセサリーのひとつです。

丸くふくらんだ方に細い穴をあけてヒモをとおして、ペンダントとして使われたと考えられています。

いろいろなオマツリごとに使われたと考えられていますが、実は詳しいことは今でもわかっていない、ナゾだらけのアクセサリーなのです。

どんな形かな？

多くの勾玉は、「C」の字または「コ」の字の形にまがった形をしています。なんだかイモムシに似ていますね。丸い玉からシッポが出たような形をしているものもありますので、オタマジャクシにも似ているでしょうか？

穴のあいている方を「頭」、曲がっている内側を「腹」、外側を「背」とよんでいます。

どうしてこのような形になったのか、動物の牙がモデルになったとする説や、お母さんのおなかの中にいるときの赤ちゃんの形に似ているとする説などがありますが、詳しいことはわかっていません。

どんな物で、どうやって作ったのかな？

多くの勾玉は、かたい石を少しずついねいに削りながら作られました。おもに翡翠（ヒスイ）、碧玉（ヘキギョク）、瑪瑙（メノウ）、水晶（スイショウ）、滑石（カッセキ）などで作られ、土製やガラス製のものもあります。

かたい石を削る作業はとても大変です。やわらかい滑石は簡単に削ることができますが、ヒスイや水晶などのかたい石の場合は、何日もかけてみがき続ける、といった感じでしょうか。

また、ヒモを通すための細い穴はどうやってあけたのでしょうか。現在のようなドリルはありませんので、石の錐（きり）を使ったり、鳥の骨や細い竹を使って少しずつ穴をあけていったと考えられています。

勾玉を作ってみよう！（用意するもの）

- ・滑石（かっせき：やわらかい石）1個
- ・紙ヤスリ（目の粗いもの）1枚
- ・紙ヤスリ（目の細かいもの）1枚
- ・耐水紙ヤスリ（目の細かいもの）1枚
- ・棒ヤスリ 1本
- ・ヒモ
- ・キリ（穴をあける道具）

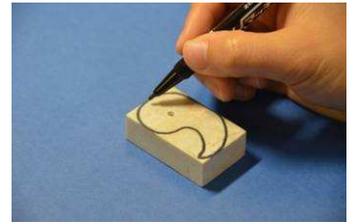


〈これらの道具はインターネットなどで買うことができます〉

作り方

(1) 設計図（せっけいず）をかく

石にえんぴつで、どんな勾玉を作りたいのか、設計図をかきます。
できるだけ大きく石いっぱいにかくと、けずる部分が少なくてすみます。



(2) ヒモを通すための穴をあける

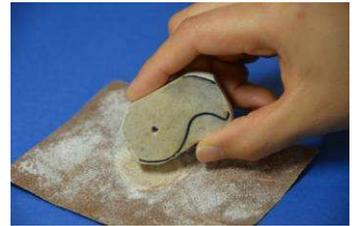
キリを使って穴をあけます。誰かに滑石を押さえておいてもらおうと、楽に穴があけることができます。
インターネットでは、すでに穴があけられた滑石を買うこともできます。

※ キリは先がとがっているので手に刺さないよう注意しましょう！

(3) 紙ヤスリ（目の粗いもの）でけずる

紙ヤスリ（目の粗いもの）のざらざらした面を上に向けて、消しゴムを使うようにしてけずります。石の表と裏が同じになるようにけずりましょう。

※ 石を持つ手もいっしょにけずるとすっごく痛いので注意しましょう！



(4) 角の部分を丸くするようにけずる

表と裏が同じようにけずれたら、角の部分が丸くなるようにけずります。手でもつ場所を変えながら、石の角度を変えてけずると、だんだんと丸みができます。

(5) 棒ヤスリでけずる

細かいところは、棒ヤスリでけずります。棒ヤスリは平らな面と丸い面がありますので、けずる場所に応じて使い分けます。この段階で、形が決まってしまうので、自分の好きな形にととのえましょう。

※ 棒ヤスリは先がとがっているので注意しましょう！



(6) 紙ヤスリ（目の細かいもの）でみがく

棒ヤスリの深いキズがなくなるように、紙ヤスリ（目の細かいもの）でていねいにみがきましょう。深いキズは、これ以降では消すことができません。キズがなくなるようにたくさんみがきましょう。



(7) 耐水紙ヤスリ（目の細かいもの）でみがく

ツルツルにするために、耐水紙ヤスリ（目の細かいもの）を使って、水の中でみがきます。できるだけたくさんみがくとツルツルしますよ。



(8) 完成！

ヒモを通してむすび、首にかけてできあがり！
いろいろな形にチャレンジしてみよう！

